

地方創生関係交付金 ～事業・K P I 検証資料～

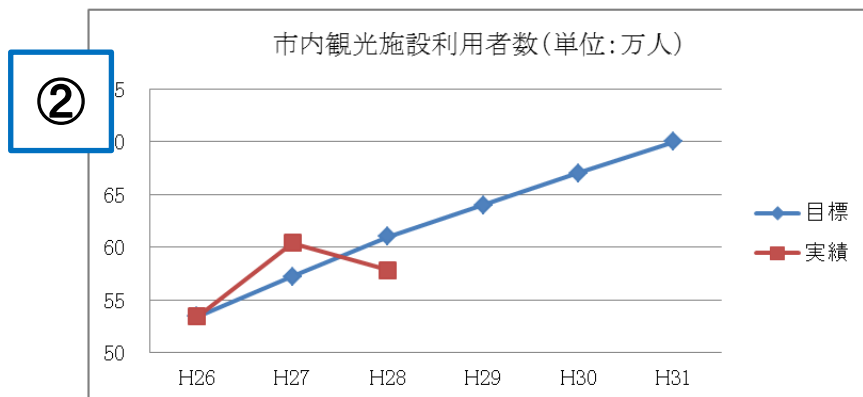
目次

1	地方創生関係交付金の概要	・・・	3
2	先行型交付金 [平成28年度検証委員会にて検証済み]	・・・	4
3	加速化交付金		
	（1）地場産業の振興事業	・・・	9
	（2）市内観光の推進による市街地活性化事業	・・・	15
4	推進交付金		
	（1）三木市生涯活躍のまちづくり事業	・・・	21
	（2）ゴルフを核としたまちの活性化	・・・	27
5	拠点整備交付金	・・・	33

KPI項目の見方

市内観光施設利用者数

① 区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	57.2万人	61万人	64万人	67万人	70万人
実績	53.4万人 (H26)	60.4万人 (106%)	57.8万人 (95%)			



KPI判定(H28年度)	③
△	
コメント	
前年比では、利用者数が下がったものの、全体としての交流人口は増加傾向にある。	④

① KPI推移表

三木市創生計画(以下、「創生計画」という。)で定めた各KPIの目標値及び実績値の推移を表で示しています。

- 1 目標欄について… 毎年度の目標値は、創生計画に定めたH31年度の目標値を基準に、各年度に按分して設定した参考値。
- 2 実績欄について… 毎年度の実績値及び、実績値の目標値に対する達成率を実績値の下括弧内に記載。

なお、創生計画で定めたKPIの対象期間はH27～H31年度が基本となりますが、地方創生関係交付金や地域再生計画が認定された年度の違いなどにより、KPIの対象期間が異なる場合があります。現時点では、H27～H31年度、H28～H32年度の2種類があり、それぞれ図表の色を変えて表示しています。

青色の表・・・KPIの対象期間が「H27～H31年度」のもの。

緑色の表・・・KPIの対象期間が「H28～H32年度」のもの。

戸建住宅への移住世帯数

桃色の欄は、各交付金の効果検証の対象年度

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
目標	—	2世帯 (転出入差 △25世帯)	10世帯 (転出入差 △17世帯)	30世帯 (転出入差 +3世帯)	60世帯 (転出入差 +33世帯)	100世帯 (転出入差 +73世帯)
実績	H27 (転出入差 △27世帯)	7世帯 (350%) (転出入差 △20世帯)				

② KPI推移グラフ

KPI推移表に示した各年度の目標値及び実績値を線グラフ又は棒グラフで示しています。

③ KPI判定欄の判例

各年度の目標値に対する実績値の評価を次の評価記号を用いて示しています。

- ◎ ……目標を上回った
- ……目標値に達成した（目標値と同程度）
- △ ……目標値に若干及ばなかった（達成率が概ね8割程度）
- × ……目標値を著しく下回った
- ……実績値の公表時期が未到来等で判定が不可能

なお、判定年度はH28年度が基本となりますが、先行型交付金にかかる事業及び国勢調査※の結果を実績値としている事業については、H27年度を判定年度として設定しています。

※国勢調査は5年ごとに行われており、H27年に第20回調査が実施され、次回調査（第21回）はH32年を予定。

④ コメント欄

実績値の推移状況や事業を取り巻く背景の状況等についてコメントを記載しています。

1 地方創生関係交付金の概要～地方創生における国の財政支援～

国は地方創生を推進するため、平成26年度から「先行型交付金」、「加速化交付金」、「推進交付金」、「拠点整備交付金」の4つの交付金を整備し、自主的・主体的な取組、先導的な取組、従来の縦割り事業を超えた取組等を中心に地方自治体を支援しています。

概要(イメージ)

【H26年度】

【H27年度】

【H28年度】

先行型交付金

H26補正予算
基礎交付 1,400億円
上乗せ交付 300億円

加速化交付金

H27補正予算
1,000億円

推進交付金

H28当初予算
1,000億円

拠点整備交付金

H28補正予算
900億円

地方版総合戦略の策定段階

地方版総合戦略の事業推進段階

先行型交付金

地方版総合戦略の策定に先行して行う事業のうち、総合戦略に位置付けられる見込みがあるものに対する交付金。

加速化交付金

地方版総合戦略に合致する事業で、まち・ひと・しごと創りを推進するものうち、先駆的な事業に対する交付金。

推進交付金

地方創生のさらなる深化に向けた、官民共同・地域間連携・政策官連携等による先導的な事業に対する交付金。

拠点整備交付金

地方版総合戦略に位置付けられた施設整備等で、ソフト事業との連携など地方創生への波及効果を高める取組に対する交付金。

H28年度
検証済

H29年度から検証

(1) 定住促進事業

(H26年度からの継続事業)

H28年度検証済

交付金充当額(実績) : 2,152万円

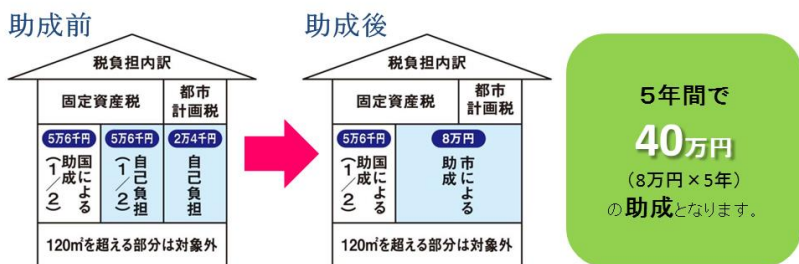
40歳未満の夫婦が新たに市内に住宅を建築(取得)する際に課税される固定資産税及び都市計画税の一部に対し助成。

課題 20～30代を中心とした若者世帯の人口流出

取組方針 住宅建築(取得)に対して助成を行い、
移住・定住を促進

取組内容 (対象) 夫婦いずれかが40歳未満で、
住宅を新築又は購入された方
(助成期間) 一般住宅の場合3年間
長期優良住宅の場合5年間

【例】評価額1,000万円の家屋(延床面積150㎡)の場合の助成額



※平成27年度 地区別集計表

地区名	件数	交付決定額 (千円)
三木	95	7,225
自由が丘	85	6,423
緑が丘	38	3,574
別所	35	2,438
青山	21	1,646
その他	19	1,175
合計	293	22,481

新たな動き

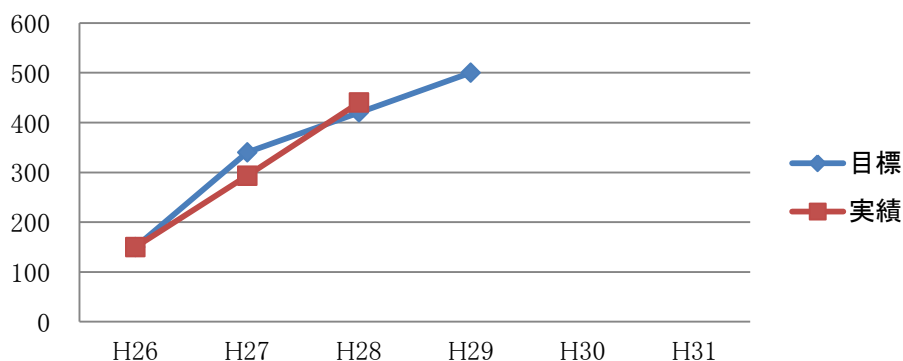
平成29年度から、
転入者に対する
・新築住宅取得助成
・リフォーム助成
を追加した。

定住促進助成件数

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	340件	420件	500件	—	—
実績	150件 (H26)	293件 (86%)	440件 (105%)			

※2018年に事業終了を予定。

定住促進助成件数(単位:件)



KPI判定(H27年度)



コメント

- ・参考目標値対比で86%の達成率。
- ・件数は増加基調で地方創生に効果あり。新たな助成事業と合わせ事業継続。

(2)「話せる英語教育」推進事業

(H27年度からの新規事業)

H28年度検証済

交付金充当額(実績) : 1,854万円

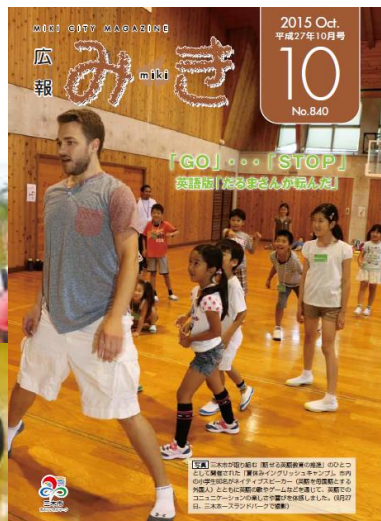
英語教育を小学1年生から導入し、中学3年生までの9年間で英語による日常会話ができるようカリキュラムを作成し、グローバル社会に対応した「ひとづくり」を実施。

課題 国際化に対応した英語教育の必要性

取組方針 「聞く」、「話す」を中心とした英語教育に取り組み、ALTや市民ボランティアと連携し、児童生徒が英語に慣れ親しめる環境をつくる。

取組内容

- 英語教育の時間増加
- ALTの増員
- 夏休みイングリッシュキャンプ
英語で歌やゲームをしたり、
昼食やオリエンテーションを行い、
ネイティブスピーカーとふれあう機会を設ける。

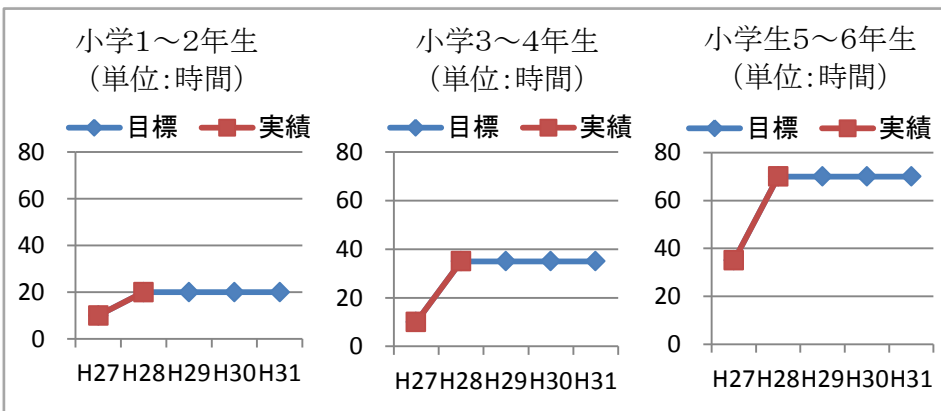


英語で「だるまさんが転んだ」を行っている様子。

内容	H27	H28
夏休みイングリッシュキャンプ(小1～3)	80人	60人
夏休みイングリッシュキャンプ(小4～6)		60人

小学生の英語教育時間

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	小1-2 10時間 小3-4 10時間 小5-6 35時間	小1-2 20時間 小3-4 35時間 小5-6 70時間	小1-2 20時間 小3-4 35時間 小5-6 70時間	小1-2 20時間 小3-4 35時間 小5-6 70時間	小1-2 20時間 小3-4 35時間 小5-6 70時間
実績	—	小1-2 10時間 小3-4 10時間 小5-6 35時間	小1-2 20時間 小3-4 35時間 小5-6 70時間			



KPI判定(H27年度)

○

コメント

- ・目標どおりの実績。
- ・キャンプは好評で事業継続方針。

(3)ハーブ産業推進事業

(H23年度からの継続事業) **H28年度検証済**

交付金充当額(実績) : 300万円

ハーブによる農業の6次産業化の推進により、三木の新たな特産品として、全国に発信するとともに、別所ゆめ街道を中心とした地域活性化を進める。

課題

- ・農業の6次産業化
- ・新たな三木のブランドづくりの必要性

取組方針

ハーブの6次産業化に取り組む「三木市ハーブ産業推進協議会」を支援するとともに、ハーブを中心とした新たなブランドづくりに挑戦。

取組内容

同社への支援のほか、観光施設や物産展でのPRやふるさと納税での記念品として取り上げ支援。



ふるさと納税の記念品(イメージ)
商品例 : ハーブティー
パウンドケーキ
バジルカレー ほか

三木市ハーブ産業推進協議会について

沿革 ・ハーブを栽培する地元農家グループとそのハーブを加工するボランティアグループ「ハーブ工房みきヴェルデ」を統合し、H24. 4月に結成。

・H27年11月に「株式会社みきヴェルデ」として法人化。

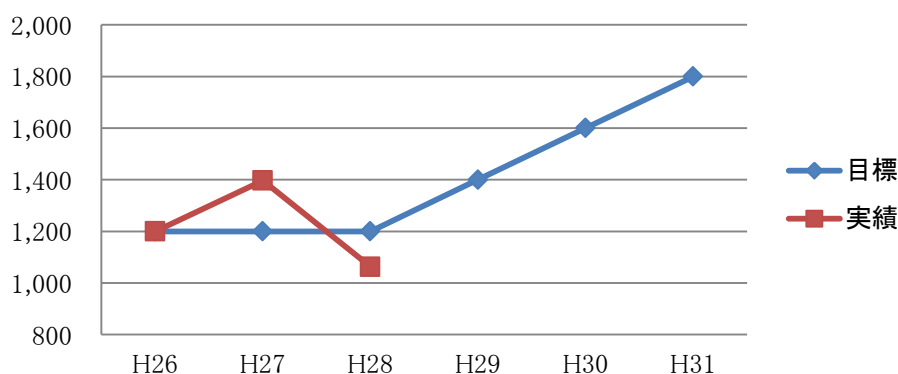
内容 ハーブの栽培から加工、販売までを行う6次産業化に取り組む。



ハーブ産業化推進による販売額

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	1,200万円	1,200万円	1,400万円	1,600万円	1,800万円
実績	1,200万円 (H26)	1,397万円 (116%)	1,063万 (89%)			

ハーブ産業化推進による販売額(単位: 万円)



KPI判定(H27年度)



コメント

運営組織の経営努力のほか、各種イベントでの市のPRも奏功し、参考目標値を大きく上回った。

(4) マルシェによる商店街活性化事業

(H26年度からの継続事業) **H28年度検証済**

交付金充当額(実績) : 300万円

人と人とのコミュニティの場としてマルシェ(定期市)を開催し、商店街の活性化やまちの賑わいを創出する。

課題 大型店やネット通販の進出等で、薄れゆく商店街のにぎわいを取り戻す

取組方針 マルシェ(定期市)を開催し、まちの人がふれあう機会を創るとともに、商店街のにぎわいを創出

取組内容 下記のマルシェ開催を支援

- ・みき元気マルシェ(明盛商店街) 年2回
- ・緑が丘さんさんマルシェ
(サンロード商店街) 年1回

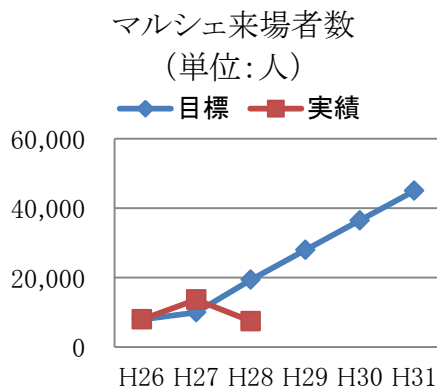
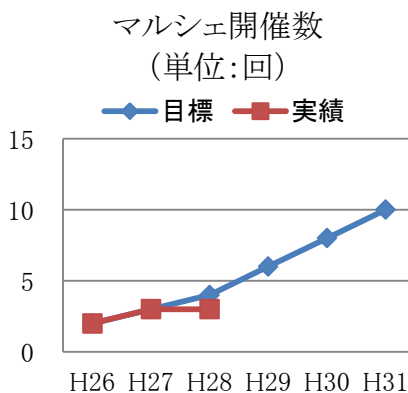
新たな動き H28年度から、従来から地元住民や団体が主体となり実施されてきた「レトロヂ」、「ナメラン」、「ハロウィン」など商店街を中心に開催されているイベントへの支援も開始。

※「レトロヂ」、「ナメラン」、「ハロウィン」については、16ページで紹介。



マルシェ開催数・来場者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	3回 10,000人	4回 19,400人	6回 27,933人	8回 36,466人	10回 45,000人
実績	2回 8,000人 (H26)	3回 (100%) 13,700人 (137%)	3回 (75%) 7,480人 (39%)			



KPI判定(H27年度)



コメント

開催数の増加により
集客数も増え、目標達成率137%となった。

(5) 住宅リフォーム促進事業

(H25年度からの継続事業)

H28年度検証済

交付金充当額(実績) : 1,100万円

市民が市内業者を活用した住宅リフォーム工事を行った場合に、その費用の一部を助成することで、市内中小企業の振興を図る。

課題 市内中小企業の振興

(表1) 取組実績

取組方針 住宅リフォームについて助成メニューを整備

取組内容 (対象工事) 市民が市内業者に発注した
住宅リフォーム工事(20万円以上)
(助成額) 費用の10分の1(上限額10万円)

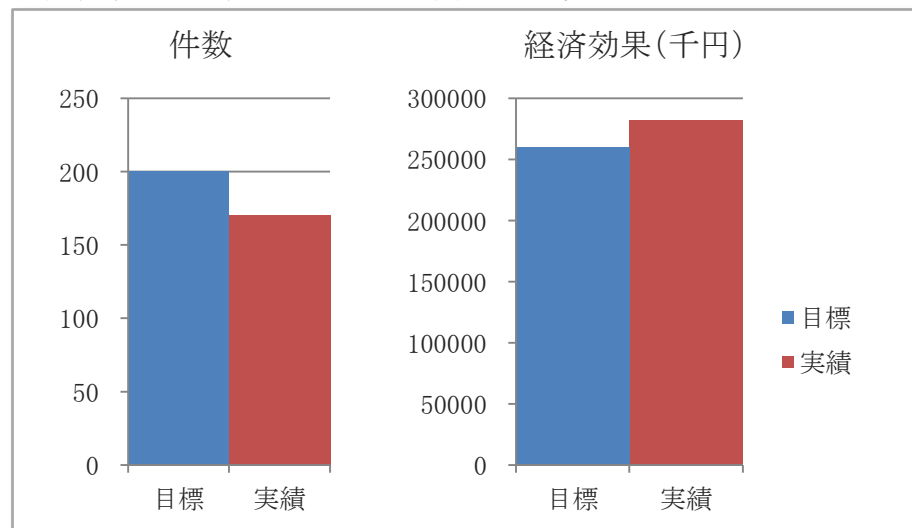
新たな動き 平成29年度から転入者に対する
・新築住宅取得助成
・転入者に対するリフォーム助成
を追加した。

年度	件数	助成交付額 (千円)
H25	627	49,968
H26	438	35,962
H27	170	14,989
H28	92	7,742
合計	1,327	108,661

住宅リフォーム促進助成件数・経済効果(※)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	200件 260,000千円	H25、26年度は全ての申込みを助成対象としていたが、平成27年度から上限を設定。そのため平成28年以降については、創生計画のなかでの目標設定をしていない。			
実績	438件 580,442千円	170件 (85%) 281,947千円 (108%)				

※経済効果は、助成した工事の費用総額。



KPI判定(H27年度)

○

コメント

件数は参考目標値に及ばなかったものの、経済効果では目標値を上回る成果を上げた。転入促進の視点にシフトしながら、事業継続。

※単年度のKPI目標につき、棒グラフで表記。

(1) 地場産業の振興事業 ① 金物振興

総事業費：3,421万円

三木金物のブランド力を高め、しごとの創出、担い手の育成、若者の定住につなげる。

課題

- ・三木金物の強みを活かした効果的な情報発信を行う人や仕組みが不十分。
- ・伝統的な鋸(のこぎり)、鑿(のみ)、鉋(かん)等の大工道具の市場開拓。

取組方針

三木金物のブランドづくりをプロデュースするトータルコーディネーターを選任するとともに、海外への市場開拓を支援。

取組内容

主な取組は下記の通り。

三木金物トータルコーディネーター(H28年度～)



- ・日本観光振興協会総合調査研究所の丁野朗(ちょうのあきら)特別研究員(H28.12月選任)
- ・3か月に1度ほど招き、助言を受ける。(まずは、三木金物の情報発信を行うための、日本語および外国語のパンフレット作りから進める。)
- ・現在は、金物業界と個別聴取を実施し、今後、金物振興策を金物業界に提案予定。

三木金物海外進出戦略

(H28年度)

- ・米ウッドクラフト、台湾五金展(8社参加)に出展。
- ・独アンビエンテへの視察。



(H29年度)

- ・台湾五金展(約20社が参加)及び独ケルンの見本市に出展予定。



○世界各地の展示会を調査し、各地のトレンドについて情報収集を行いながら新製品の開発や新たな販路開拓につなげていく。

新製品開発推進事業

三木金物ニューハードウェア賞の認定により、金物新製品の研究意識の高揚を図り、産業振興につなげる。認定製品には助成金を交付。



三木金物博覧会 鍛冶でっせ！

三木金物の展示会。親子体験やゲームなど体験やふれあいを重視した各種イベントを集約し三木金物に親しめる場所づくりを創出。



H27年度	46事業所が参加
H28年度	50事業所が参加

関連内容 三木金物まつり

毎年11月の第1土・日曜日に市役所前広場をメイン会場に、県内外から多くの来場者(H28年度 161千人)で賑わい、金物びつくり市をはじめ、金物古式鍛錬の実演、農業祭など盛りだくさんの内容で開催する三木市の一大イベント。

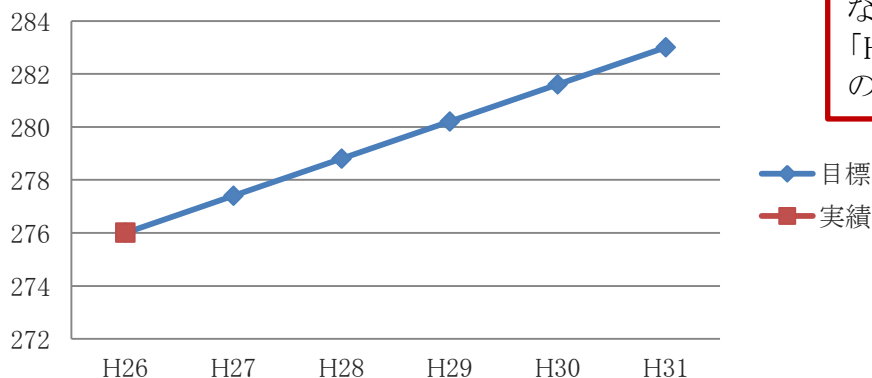


金物製品出荷額

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度 (H27.1～12月)	H28年度 (H28.1～12月)	H29年度 (H29.1～12月)	H30年度 (H30.1～12月)	H31年度 (H31.1～12月)
目標	—	277.4億円	278.8億円	280.2億円	281.6億円	283億円
実績	276億円 (H26)	H29.12月頃 公表見込	H30年 公表見込			

本KPIの実績値は工業統計調査から引用。
「H27年工業統計調査」が同様の調査項目を含む「H28年経済センサスー活動調査」の実施に伴い中止となったため、H27年度の実績値は「H28年経済センサスー活動調査」の公表により決定。

金物製品出荷額(単位:億円)

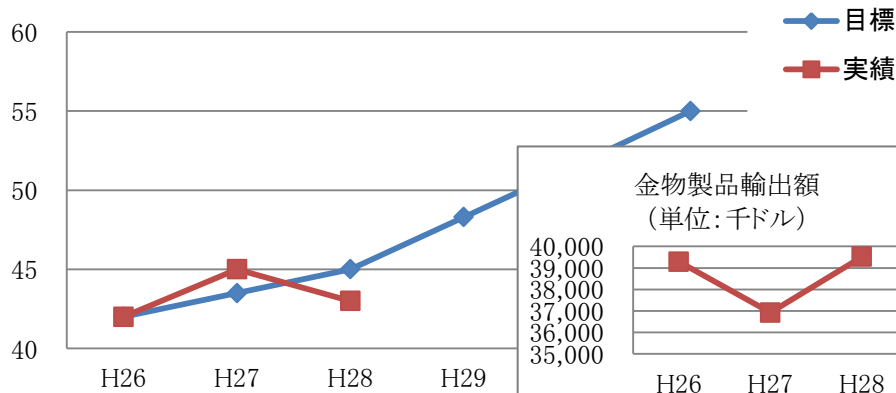


検証年度の実績値が確定していないため、次回以降効果検証を実施。

金物製品輸出額

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度 (H27.1～12月)	H28年度 (H28.1～12月)	H29年度 (H29.1～12月)	H30年度 (H30.1～12月)	H31年度 (H31.1～12月)
目標	—	43.5億円	45億円	48.3億円	51.6億円	55億円
実績	42億円 (H26)	45億円 (103%)	43億円 (96%)			

金物製品輸出額(単位:億円)



KPI判定(H28年度)

△

コメント

H27年に比べてH28年の輸出額が減少したのは、為替レートの影響も一つの要因と考えられる。

【為替換算前の金額と為替レート】
H26 39,284千ドル(105.77円/\$)
H27 36,918千ドル(121.08円/\$)
H28 39,518千ドル(108.77円/\$)

②山田錦振興

総事業費：1,441万円

山田錦の生産奨励を行うことにより、しごとの創出、担い手の育成、若者の定住につなげていく。

課題

- ・農業従事者の高齢化や後継者不足
- ・農業所得の向上など、持続可能でたくましい農業の創出

取組方針

- ・日本酒ブームによる山田錦の需要増加にあわせた生産奨励
- ・生産組織の法人化による経営基盤の強化

取組内容

主な取組は下記の通り。

山田錦奨励事業補助金

近年の需要の増加に対応するため、農業改良普及センター、市内農協とともに
枠外制度を
活用して
増産を推進。

年度	奨励金額 (単位：千円)
H26	9,307
H27	13,814
H28	13,893

関連内容

インターナショナル・ワイン・チャレンジ(IWC)

- ・SAKE部門審査会開催。(神戸市ーH28.5月)
- ・三木市の稲見酒造「葵鶴 大吟古酒」が古酒の部「銅賞」。
- ・外国から招かれた審査員の田植え体験を吉川町で実施。
(体験の様子を三木市You-tubeで公開)

山田錦まつり

- ・山田錦の館で開催されるまつり。高級酒の試飲等に加え、餅まきやキッズダンスなどイベントも充実。
- ・H28年度は神戸電鉄粟生線活性化協議会の企画「貸切列車&貸切バスで山田錦まつりへGO」と連携。居酒屋風に模様替えした貸切列車内で日本酒を楽しむ内容で市外からの誘客を促進。(来場者数:H27 9,600人、H28 9,900人)

山田錦80周年祭

- ・三木市産の山田錦を使う国内の酒蔵24社が集ったイベントを開催。試飲会のほか、山田錦の歴史や特性を伝えるセミナーも開催。

イノシシ等による農業被害対策

- ・イノシシやシカ等による農業被害が深刻化しており、H27年度に策定した「イノシシ撃退10年大作戦」を前倒しで推進。



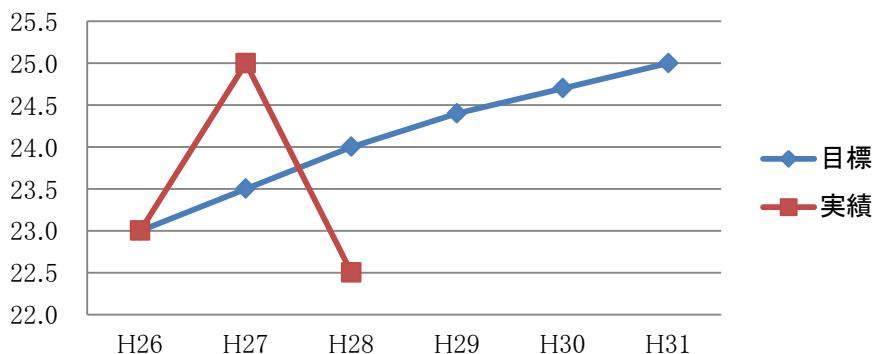
畦畔等の被害



山田錦の出荷額

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	
目標	－	23.5億円	24億円	24.4億円	24.7億円	25億円	
実績	23億円 (H26)	25億円 (106%)	22.5億円 (94%)				
					H26	H27	H28
				出荷袋数 (袋/30kg)	181,350	201,795	182,953
				単価(1袋あたり)	12,660円	12,478円	12,300円

山田錦の出荷額(単位:億円)



KPI判定(H28年度)



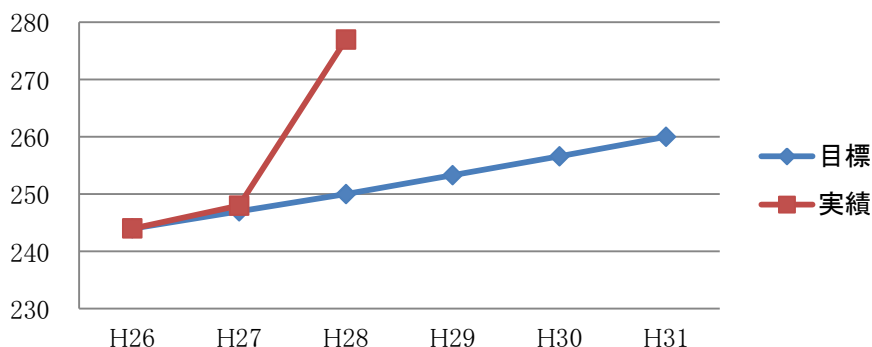
コメント

H28年度は天候不順で品質が例年より劣っていたこと、及び出荷量が減少したため出荷額が低下した。

農業平均所得(専業農家)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度 (H27.1~12)	H28年度 (H28.1~12)	H29年度 (H29.1~12)	H30年度 (H30.1~12)	H31年度 (H31.1~12)
目標	—	247万円	250万円	253.3万円	256.6万円	260万円
実績	244万円 (H26)	248万円 (100%)	277万円 (111%)	H28年度実績値は市算出による速報値。		
【参考】農業 所得者数	122人	139人	120人			

農業平均所得(専業農家)(単位:万円)



KPI判定(H28年度)



コメント

農地の集積化による経営規模を拡大する一部の農家の所得押上げも理由の一つとして考えられている。

(注釈)ここでの農業者とは、所得金額のうち農業所得が最も大きい者。

地方創生加速化交付金(地場産業振興事業関係)の執行状況

(H28年度)

※執行額から対象外経費を除いた額

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
三木金物コーディネーター設置事業	2,100千円
海外進出戦略事業	5,000千円
三木金物フェア事業	3,500千円
新製品・新素材開発推進事業	1,464千円
三木金物後継者育成事業	820千円
三木金物PR事業	7,000千円
金物大学事業	109千円
山田錦生産奨励	13,893千円
合計 33,886千円	



総事業費：1億3,807万円

歴史、文化、自然など魅力あふれる観光資源に磨きをかけ、観光施設とおしを「つなぐ」ことで、市内の観光周遊や商店街を中心とした経済の活性化を図る。

課題

- ・観光施設どうしが点在し、「線」としてつながっていない。
- ・観光周遊の流れがゴルフや道の駅、大型公園に偏り、商店街を中心とした店舗など市内の経済効果に波及していない。

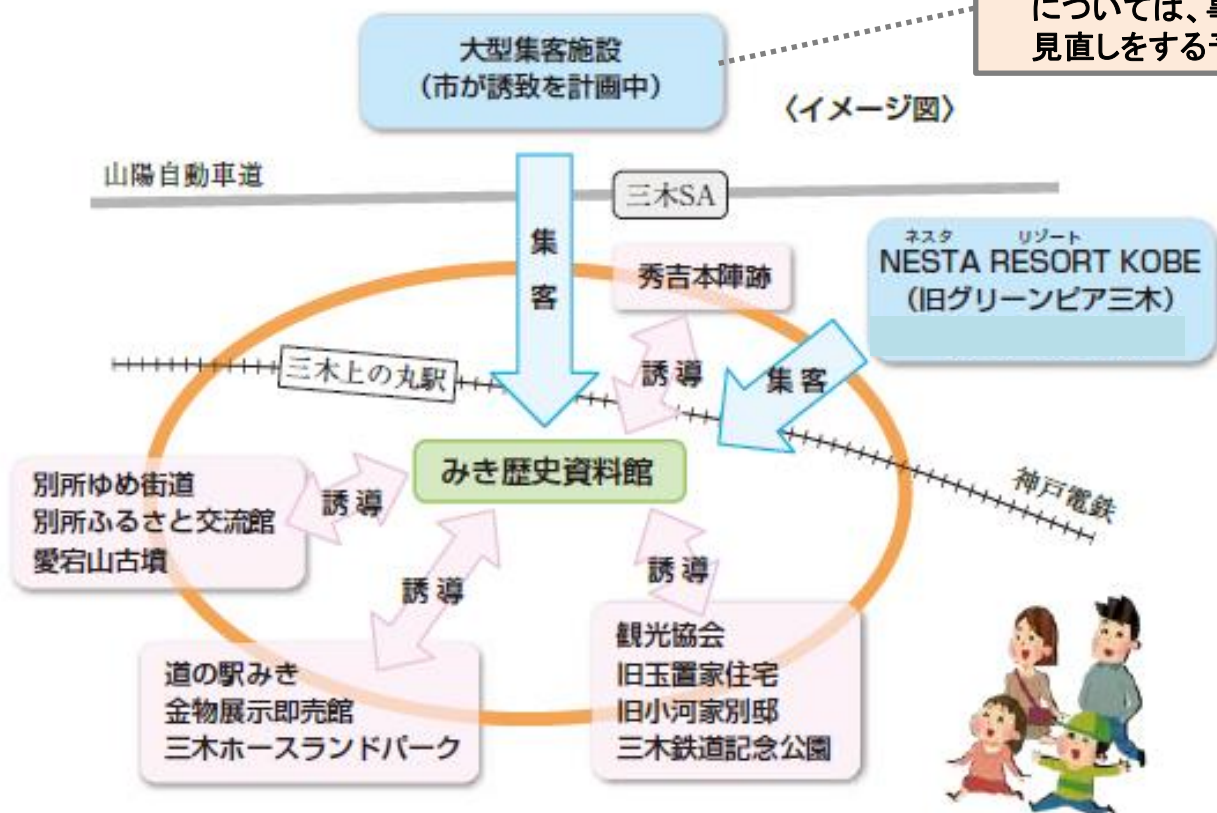
取組方針

- ・地域一体となって既存の観光資源(宝)を磨くことによる魅力向上
- ・各施設で活躍する人材の育成と口コミを生み出すしくみづくり
- ・観光施設等のネットワーク化による経済の好循環化

取組内容

- ・リニューアルした「みき歴史資料館」で、情報発信やまちおこしなど歴史、文化を活かしたまちのにぎわいづくりを推進。
- ・マルシェの開催支援など商店街を中心とした市街地の活性化。
- ・みっきいハイキングによる観光地周遊や、ネスタリゾート神戸における三木市観光ギャラリーなど、観光施設どうしを「つなぐ」取組。

取組イメージ図(みき歴史資料館を拠点にしたイメージでの一例)



※大型集客施設誘致
については、事業の
見直しをする予定

みき歴史資料館（H28年5月オープン）

歴史及び文化遺産に関する資料を収集、保管、展示するとともに「歴史・美術の杜みゅーじあむ」のインフォメーション施設として開館。常設展のほか企画展やまちの歴史を探索する歴史ウォークなどを開催。

市内の指定・登録文化財と三木合戦を落語家の笑福亭たまさんが紹介する動画を制作（H28.3）。館内休憩スペースにて放映。



商店街でのマルシェや各種イベント支援

- ・みき元気マルシェ
- ・緑が丘さんさんマルシェ

猿の演技やトークショー等のイベントやさまざまな屋台でにぎわう明盛商店街の「みき元気マルシェ」。他にも緑が丘のサンロード商店街でもマルシェを開催。



時期	イベント	来場者数
H28.5	みき元気マルシェ	5,000
H28.9	緑が丘さんさんマルシェ(雨天)	80
H29.3	緑が丘さんさんマルシェ	2,400

レトロヂ

「レトロな路地裏」をコンセプトとしたナメラ商店街の「レトロヂ」。昔懐かしい雰囲気が特徴。



時期	イベント	来場者数
H28.5	レトロヂ	5,000

ナメラン

ナメラ商店街や三木城跡の周回コースを走り、三木の歴史や文化を体感するリレーマラソン「三木ナメラン」。



ハロウィン

たくさんの子供たちが参加し、多世代がにぎわう緑が丘町の「緑が丘ハロウィン」。



時期	イベント	来場者数
H28.10	緑が丘ハロウィンストリート	5,000

観光コンシェルジュ

観光スポットや食などについて地域のふれあい拠点のスタッフ等が広告塔として口コミでPR。

(H28年度の取組)

- ・ガイド養成講座を実施。
- ・各公民館だけでなく、市内の農家レストランなどでも、観光パンフレットを設置し、口コミで市内周遊コースを紹介。



みっきいハイキング

三木市の歴史や文化に触れるとともに、美しい自然を満喫することができるハイキング。

(コース例)

御坂サイフォン・紅葉の伽耶院コース

- ・緑が丘駅～どっこいさん～志染の石室～御坂サイフォン～千体地蔵～伽耶院(解散)～緑が丘駅

※紅葉の伽耶院で、三木食づくりの会により名物販売(うどん、すし、ぜんざい等)。



【参加者数】 H27年度 … 760人
H28年度 … 621人

三木市観光ギャラリー

主要な観光施設に三木市をPRするブースを設置。H28年度には、ネスタリゾート神戸内にギャラリーを設置し、三木金物や日本酒などの市内特産品や観光地をPRし、観光客の市内周遊を促進。

(H28年度)

- 常設…各種パンフレット、三木金物、
ハーブ商品、美吉籠、日本酒、
市内の作家による家具や玩具など
- 夏……夏祭り、観光ぶどう園
- 秋……紅葉スポット、金物まつり、
展示用の祭り屋台
- 冬……山田錦まつり、いちご農園



ネスタリゾート神戸(H28.7オープン)

H28.7 … ホテルリニューアル、グランピング、プール

H28.11… イルミネーション

H29.4 … お花畑、天然温泉、エグゼクティブホテル、
スカイジャングル

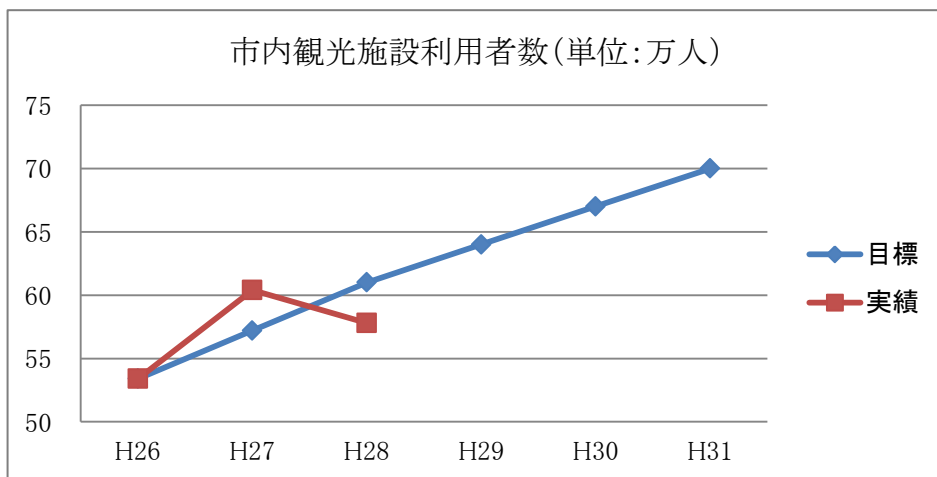
H29.6 … プール(スライダー)

H29.7 … グランピング宿泊専用キャビン



市内観光施設利用者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30度	H31年度
目標	—	57.2万人	61万人	64万人	67万人	70万人
実績	53.4万人 (H26)	60.4万人 (106%)	57.8万人 (95%)			



KPI判定(H28年度)

△

コメント

前年比では、利用者数が下がったものの、全体としての交流人口は増加傾向にある。

【参考】市内観光施設利用者数の内訳

施設名	H26年度	H27年度	H28年度
三木ホースランドパーク (研修センターの利用者数を除く)	202,753人	220,874人	192,165人
道の駅みき	318,994人	370,421人	354,740人
旧玉置家住宅	9,907人	9,457人	11,797人
旧小河家別邸	2,651人	3,640人	2,372人※
みき歴史資料館(H28.5開館)	—	—	16,996人
合計	534,305人	604,392人	578,070人

※旧小河家別邸は、H28.10月～H29.4月の期間中、建物の補強・改修工事のため休館。

・三木ホースランドパーク

H27年度は、和歌山国体の会場の一つとなったため、利用者数が増加した。

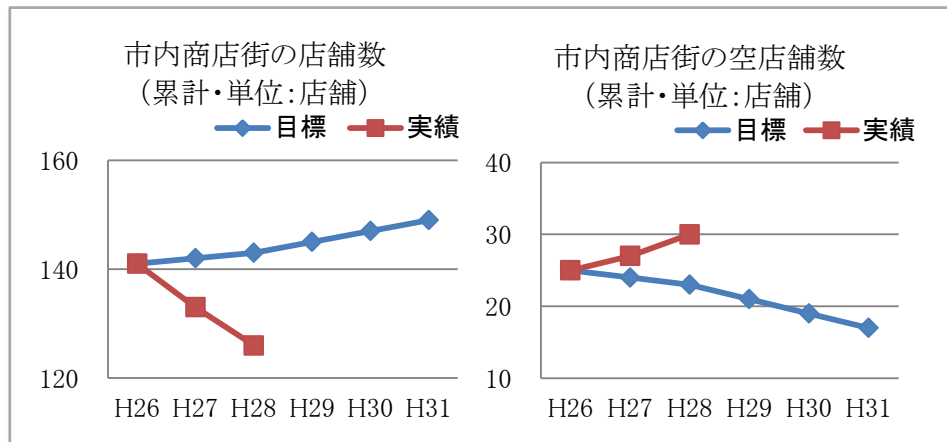
・道の駅みき

民間の観光バスツアーの積極的な誘致により、H27年度以降は観光バスの立ち寄り先となり利用者が増加した。

市内商店街の店舗数(空き店舗数)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	142店舗 〈24店舗〉	143店舗 〈23店舗〉	145店舗 〈21店舗〉	147店舗 〈19店舗〉	149店舗 〈17店舗〉
実績	141店舗 〈25店舗〉 (H26)	133店舗 (94%) 〈27店舗〉 (87%)	126店舗 (88%) 〈30店舗〉 (70%)			

※市内商店街・・・ナメラ商店街、明盛商店街、プリンスロード商店街、大和名店街、サンロード商店街を指す。



KPI判定(H28年度)

×

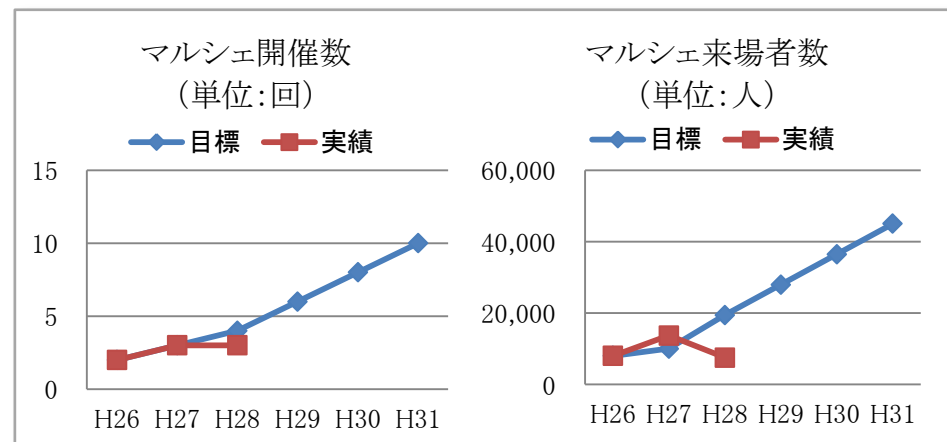
コメント

新規起業者が一定数いるものの、既存店舗が店主の高齢化等の理由などから廃業されることも多い。商店街店舗の活性化が課題。

マルシェ開催数・来場者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	3回 10,000人	4回 19,400人	6回 27,933人	8回 36,466人	10回 45,000人
実績	2回 8,000人 (H26)	3回 (100%) 13,700人 (137%)	3回 (75%) 7,480人 (39%)	H27.8 明盛商店街 4,500人 H27.11 サンロード商店街 4,500人 H28.3 明盛商店街 4,700人	H28.5 明盛商店街 5,000人 H28.9 サンロード商店街※ 80人 H29.3 サンロード商店街 2,400人	

※雨天のため大半の予定を中止



KPI判定(H28年度)

×

コメント

雨天等にも左右され、来場者数が減少した。継続的にぎわいづくりには、地域が参画しやすい体制作りが必要。

ネスタリゾート神戸の利用者数

ネスタリゾート神戸が発表している初年度来場者数の目標は60万人(期間はH28.7月～H29.6月の1年間)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	—	—	—	—	200万人
実績	旧グリーンピア三木の実績値 20.6万人 (H26)	13.8万人 (H27.12閉鎖)	事業者に 確認中			

※現時点では実績がないため、グラフ表記及び判定・コメント欄を省略。

地方創生加速化交付金(市内観光の推進による市街地活性化関係)の執行状況

(H28年度)

※執行額から対象外経費を除いた額

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
市内観光施設の連携	20,565千円
国史跡指定施設を活用した事業	7,623千円
歩く観光コンシェルジュの育成	1,184千円
別所ゆめ街道の活用に向けた花のあるまちづくり	3,508千円
合計 32,881千円	

(1) 三木市生涯活躍のまちづくり事業

総事業費：9,050万円

国が提唱する「生涯活躍のまち」構想に基づき、高齢者と若い世代が共生していく新たなライフスタイルを市全体で進めていくなかで、まずは高齢化が進み、空き家が増加している緑が丘をモデルとして、まちの再生を推進する。

課題

- ・ 少子高齢化、若者の人口流出による、高齢化率の増加、空き家増加。
- ・ 多世代が共生できる新たなライフスタイルの構築。

取組方針

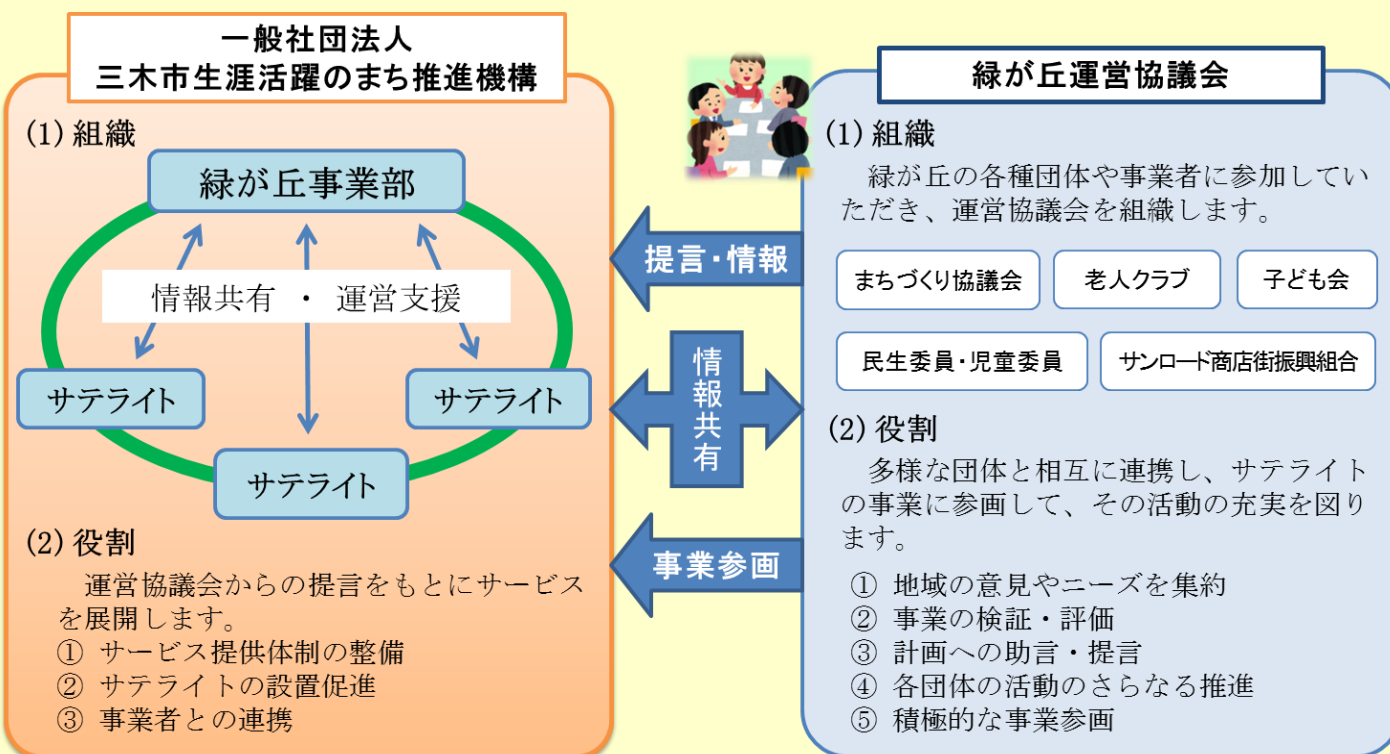
- ・ 集合住宅及び戸建住宅エリアのゾーニングによる住み替え促進や高齢者を中心にしたサービス展開ができるサテライトを設置。
- ・ 多世代が交流できるような場所の創出。

取組内容

- ・ 三木市では、国の構想に加え、市内での住み替え、若者・子育て世代の移住をも構想に取り入れ「多世代が共生する地域社会」を創り、人口バランスを整え、持続あるまちの発展につなげていくことが特徴。

事業イメージ

生涯活躍のまちの推進体制図（緑が丘地区）



H28年度の主な取組

生涯活躍のまち推進機構の設置(H28新規)

多世代交流による豊かなまちづくりを推進するため、市、住民団体、民間事業者等で構成する（一社）三木市生涯活躍のまち推進機構をH29.3月に設立。地域団体との調整や事業を実施する拠点施設の準備を進めている。

高齢者ファミリーサポートセンター設置(H28新規)

地域住民が高齢者の日常生活を支援するネットワーク構築をめざし、H28.10月、高齢者ファミリーサポートセンターを社会福祉協議会内に設置。高齢者を手助けする協力会員（有償ボランティア）と依頼会員（高齢者）との調整を実施。

24時間健康医療相談ダイヤル(H28新規)

H28.8月から健康に対する不安や病気・けがの対応に関する相談窓口を設置。24時間対応で、医師や看護師等の専門家によるアドバイスやカウンセリングを受けることが可能。

平成28年度実績(H28.8～H29.3)
相談件数 1,093件



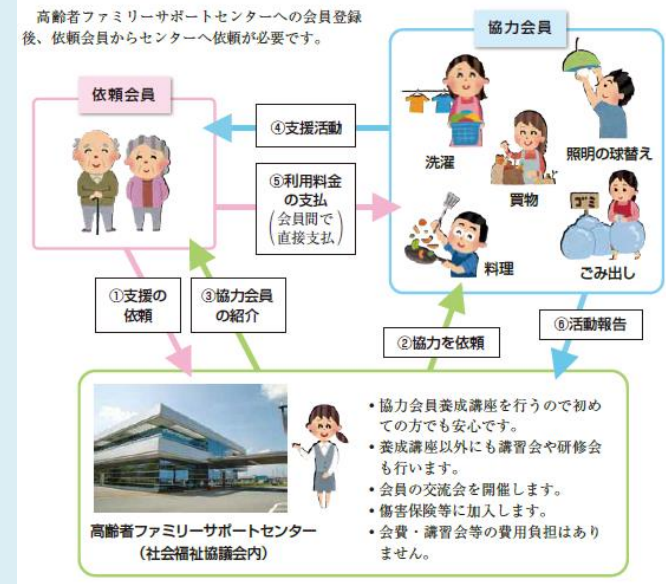
三木市PR映像の作成(H28新規)

定住移住PR動画を製作。ケーブルテレビCMやシネアド（映画館CM）で放送。また、定住移住パンフレットも作成し、子育て施策を中心に、三木市の魅力をPR。



今回新たに誕生した「三木市定住・移住応援キャラクター」。広報みきH29年3月号でネーミングを募集。
⇒「みきるん」に決定！（H29年4月）
応募総数402件

高齢者ファミリーサポートセンターの概要



移住定住PR動画



市民130名がラッキィ池田氏振付のダンスで三木の明るさ、元気を表現。

- 三木市公式YouTubeチャンネル
- 市内観光施設及び各種移住関連イベント 等
- J:COMチャンネル CM(H28.12～H29.3)
- シネアド[神戸2館、大阪1館](H29.3)
- ミントビジョン(H29.8)で放映。

移住定住PRパンフレット

- 市役所関係窓口課
- 市内外の不動産会社、商業施設
- 市内公共施設、観光施設などで設置・配布



H29年度の主な取組

生涯活躍のまち推進機構の活動支援(継続)

(一社)三木市生涯活躍のまち推進機構の拠点としてH29.4月に「緑が丘事業部」を開設。併設する「サテライト」で気軽に立ち寄れる相談窓口や多世代の交流によるまちのにぎわいづくりを進めていく。また、住民との意見交換の場として「運営協議会」を定期的に行うことで地域の課題・ニーズを把握し、地域に密着した取組を行っていく。

サテライトを活用して交流イベントや住民との意見交換会を開催



高齢者ファミリーサポートセンター(継続)

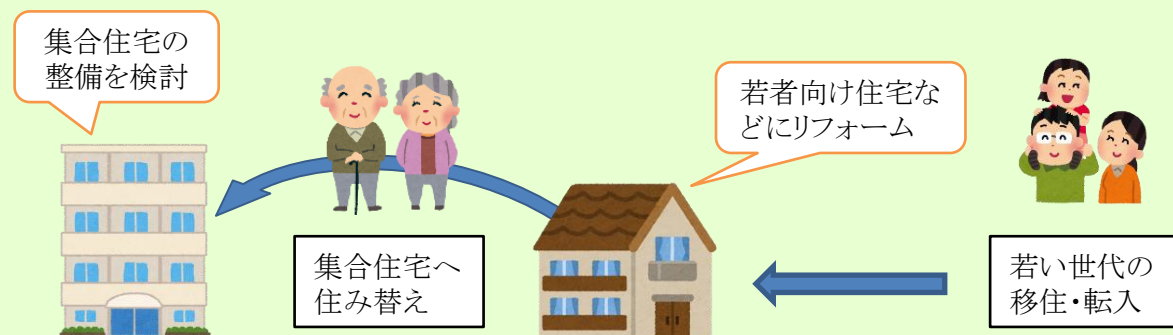
H28.10月に開設した高齢者ファミリーサポートセンターにおいて高齢者を手助けする協力会員(有償ボランティア)と依頼会員(高齢者)との調整を実施。さらなる事業の充実を図っていく。

集合住宅の基本設計(H29新規)

移住者や住替え希望者の受け皿となる集合住宅を神戸電鉄緑が丘駅西側に整備するための基本設計を検討。住民のニーズや事業採算性に十分留意しながら進めていく。

再検討

集合住宅建設にかかる計画の概要



戸建住宅への移住世帯数

緑が丘地区における戸建住宅を対象に、H27年度の転出入の差を基準とし、増減幅を比較する目標値。

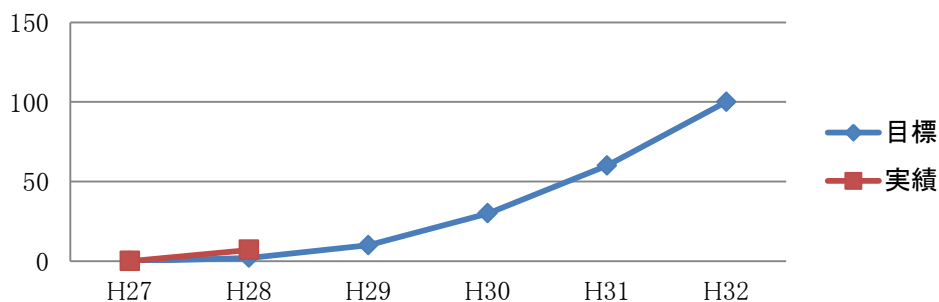
区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
目標	—	2世帯 (転出入差 △25世帯)	10世帯 (転出入差 △17世帯)	30世帯 (転出入差 +3世帯)	60世帯 (転出入差 +33世帯)	100世帯 (転出入差 +73世帯)
実績	H27 (転出入差 △27世帯)	7世帯 (350%) (転出入差 △20世帯)				

※緑が丘地区への転入出世帯数(市民課アンケートによる集計)

H27年度 : 転入50世帯 / 転出77世帯 / 転出入差△27世帯

H28年度 : 転入49世帯 / 転出69世帯 / 転出入差△20世帯

戸建て住宅への移住世帯数(累計・単位:世帯)



KPI判定(H28年度)



コメント

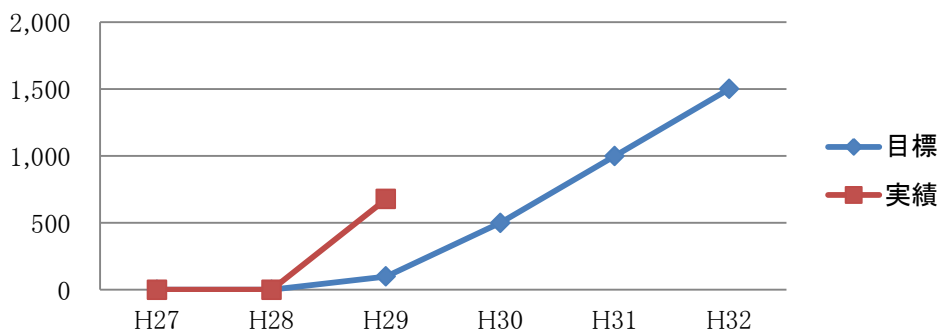
転出世帯が前年度に比べ微減したことにより、転出超過が若干改善した。

生活支援サービス拠点利用者数

緑が丘に設置予定の生活支援サービス拠点の利用者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
目標	—	—	100人	500人	1,000人	1,500人
実績	—	—	678人※ (678%)	※開設日(H29.5.22)から 7月末までの延べ利用者数		

生活支援サービス拠点利用者数(累計・単位:人)



KPI判定(H28年度)

—

コメント

検証年度の実績値が確定していないため、次回以降効果検証を実施。

整備集合住宅への移住世帯数

再検討

緑が丘駅前に整備予定の集合住宅
に住み替えした高齢者の世帯数。

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
目標	—	—	—	—	50世帯	100世帯
実績	—	—				

※現時点では実績がないため、グラフ表記を省略。

地方創生推進交付金(三木市生涯活躍のまちづくり事業)の執行状況

(H28年度)

※交付金充当額は執行額から対象外経費を除いた額の1/2

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
緑が丘町・青山まちづくりビジョン委員会の活動支援	16千円
地域住民が主体となってまちづくりについて協議する「まちづくりビジョン委員会」の活動を支援。なお、推進機構の設立に伴い、緑が丘町まちづくりビジョン委員会は活動を終結した。	
まちづくり勉強会の開催支援	324千円
H29.3月に商店街エリアでまちづくりに関する意見交換会を開催。専門家を招いてまちづくりの手法や問題点などについて意見交換を行った。	
生涯活躍のまち推進機構の設立	2,180千円
22ページ参照	
24時間健康医療相談ダイヤル	2,738千円
22ページ参照	
高齢者ファミリーサポートセンター	3,950千円
22ページ参照	
成年後見支援センター	4,500千円
H27.10月に開設した「成年後見支援センター」において成年後見制度の利用を支援。高齢化の進行により今後ますます同制度への関心の高まりが予想されるため事業のPRを継続していく。	
多世代交流イベント	6,000千円
みっきい夏まつり、さんさんまつりを開催。市内外から多くの来場があり、まちの活性化に寄与した。また、子どもからお年寄りまで皆が楽しく過ごせる交流の契機として大いににぎわいを見せた。	
高齢者大学・大学院	3,545千円
地域社会づくりの実践者を育成するため、高齢者大学・大学院の運営を支援。オープン講座の開設や講座内容の充実を図り、入学者の増加に取り組んでいる。	
三木市PR事業	4,175千円
22ページ参照	
緑が丘地区の道路整備	8,571千円
地区内の歩道の段差解消、バリアフリー化により住民が安心・安全に生活するための整備を進めている。	

合計 35,999千円

(2) ゴルフを核としたまちの活性化

総事業費：4,000万円

西日本一ゴルフ場が多い三木市の特徴を活かした事業を展開し、「ゴルフのまち三木」を広くPRするとともに、ゴルフ産業を振興し、まちの活性化につなげる。

課題

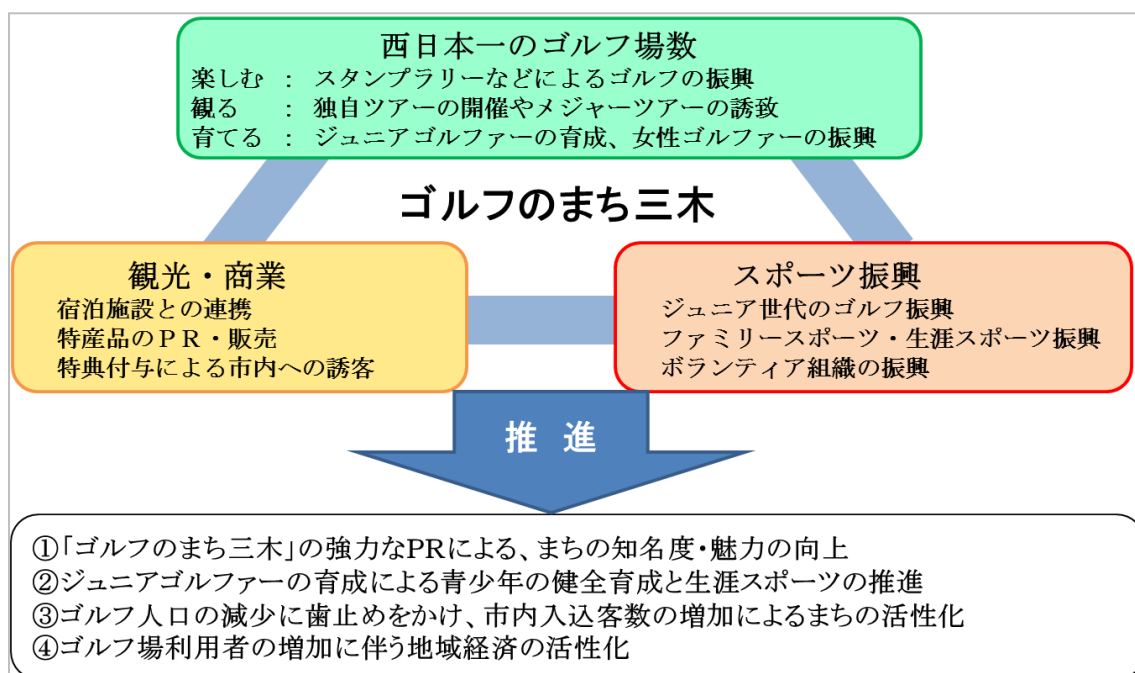
- ・レジャーの多様化や高齢化に伴い、ゴルフ人口が減少しており利用者の維持、増加が必要。
- ・ゴルフ場利用者を市内の観光・商業施設へと誘導できていないため、ゴルフ場を活用した市内周遊が必要。
- ・ゴルフ人口の裾野を広げるとともに、ゴルフのまちをPRするため、子どもを中心としたゴルファー育成が必要。

取組方針

- ・ゴルフトーナメント開催によるゴルフ振興
- ・スタンプラリーを活用したゴルフ場の利用促進及び地域活性化
- ・ゴルフ体験やゴルフ教室開催によるジュニア育成

取組内容

- ・レディースゴルフトーナメントの開催
- ・スタンプラリーの開催
- ・ゴルフ教室やスナッグゴルフ大会の開催



関連内容

ふるさと納税体験型返礼品によるまちの活性化

年度	協賛ゴルフ場	返礼品送付数
H27年度	3	1,974セット
H28年度	5	4,560セット
H29年度	5※	1,813セット※

※H29年7月までの実績値



レディースゴルフトーナメント開催(H28～)

(H28年度)

- ・H28年7月、第1回三木市レディースゴルフトーナメントを開催。
- ・94人の選手が参加。ギャラリーは大会2日間で480人。ボランティア70人が大会運営に参加。
- ・優勝者には賞金のほか、三木市産キヌヒカリを贈呈。



(H29年度)

- ・H29年7月、第2回三木市レディースゴルフトーナメントを開催。
- ・110人の選手が参加。ギャラリーは大会2日間で580人。ボランティア65人が大会運営に参加。
- ・優勝者には賞金のほか、三木市産キヌヒカリを贈呈。

1,000人コンペ(H28)・10,000人コンペ(H29)

(H28年度)

H28年4月、市内25カ所のゴルフ場で1,000人コンペを一斉に実施。各ゴルフ場の優勝者25名、飛び賞5名、女性上位3名を、名門コース廣野ゴルフ倶楽部での決勝大会に招待。

(H29年度)

H29年4月～9月まで毎月1回合計6回、10,000人コンペを一斉に実施。各月入賞者5名、計30名を名門コース廣野ゴルフ倶楽部での決勝大会、三木市レディース・のじぎくオーブンプロアマ大会に招待。

ジュニアゴルファーの育成

子どもを中心にゴルフ教室やスナッグゴルフ大会を開催。ゴルフのまちとして、ゴルファーの育成を実施。



スナッグゴルフとは、テニスボールに似た球をプラスチック製のクラブで打つ競技。三木市では全小学校に道具一式を配布している。

スタンプラリー開催(H28～)

(H28年度)

各ゴルフ場を巡る仕組みづくりとして、スタンプラリー開催。スタンプ獲得数(5コース以上から)に応じて市内特産品等を贈呈。

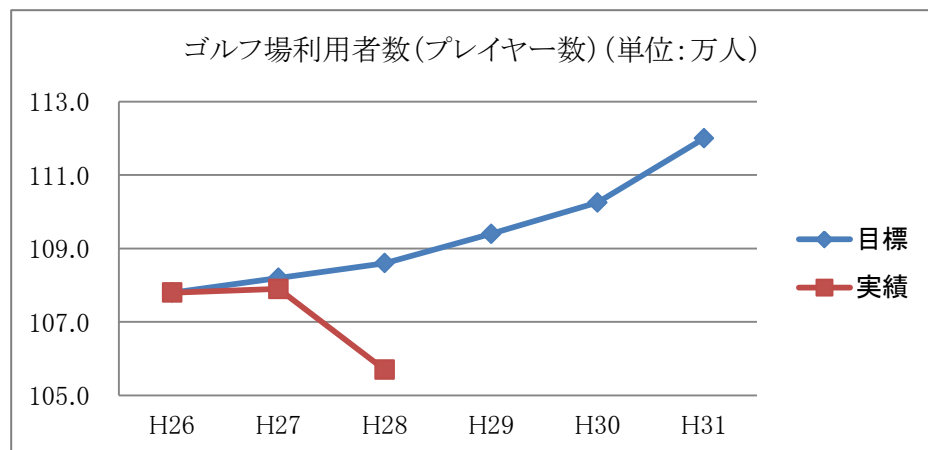
(H29年度)

H28年度の内容に加え、20スタンプ以上達成者の中から抽選で5名様にゴルフ場利用権を贈呈。



ゴルフ場利用者数(プレイヤー数)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	108.2万人	108.6万人	109.4万人	110.25万人	112万人
実績	107.8万人 (H26)	107.9万人 (100%)	105.7万人 (97%)			



KPI判定(H28年度)

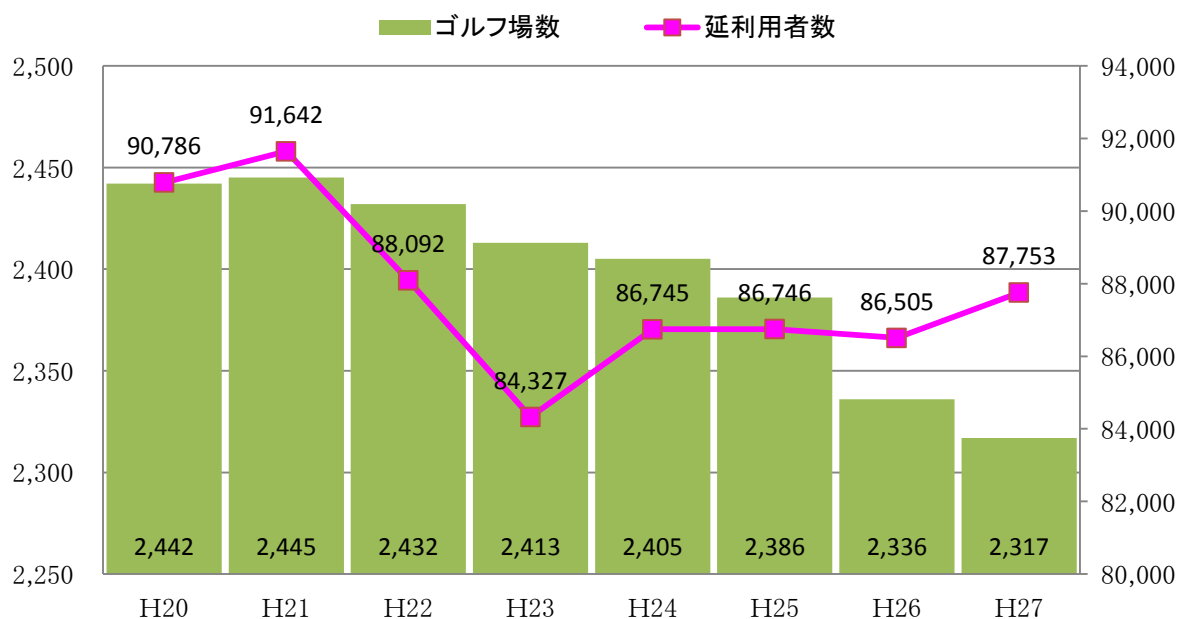
△

コメント

- ・天候(H27年度は暖冬)
 - ・近隣市のプレイ料金値下げ傾向
- などの影響で利用者数が減少したと考えられる。

参考

【全国】ゴルフ場数・延利用者数の推移
(単位: か所[ゴルフ場数]、千人[延利用者数])

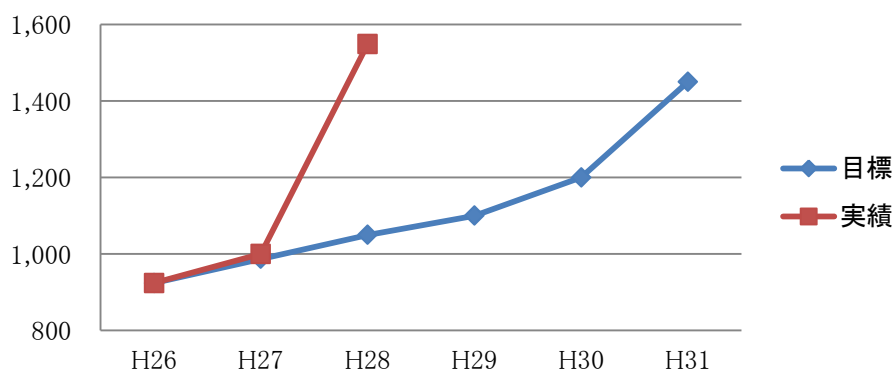


(出典) 一般社団法人 日本ゴルフ場経営者協会
「利用税の課税状況からみたゴルフ場数、延利用者数、利用税額等の推移」

ジュニア育成のゴルフ教室及びスナッグゴルフ大会参加者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	987人	1,050人	1,100人	1,200人	1,450人
実績	924人 (H26)	1,000人 (101%)	1,549人 (148%)			

ジュニア育成のゴルフ教室及びスナッグゴルフ大会参加者数(単位:人)



KPI判定(H28年度)



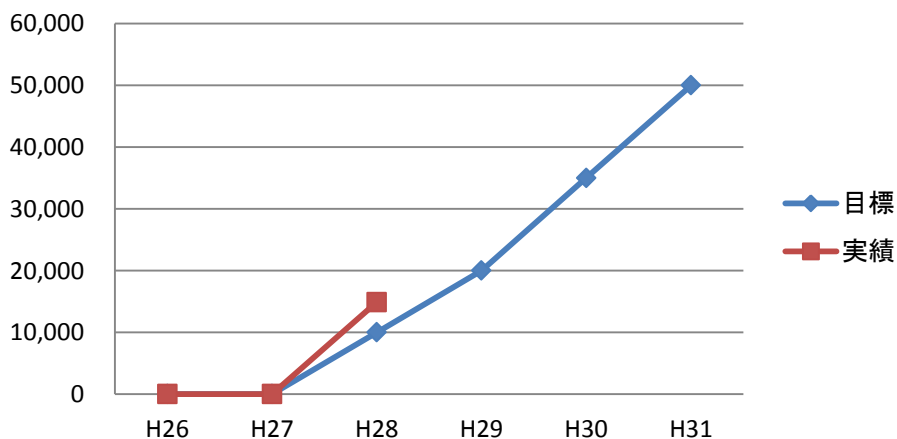
コメント

H27年度は半期のみ開催していたゴルフ教室を通年で実施したため、参加者数が増加した。

スタンプラリー参加者数(延べ)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度 (H28.4~9)	H29年度 (H29.4~9)	H30年度	H31年度
目標	—	—	10,000人	20,000人	35,000人	50,000人
実績	—	—	14,912人 (149%)			

スタンプラリー参加者数(単位:人)



KPI判定(H28年度)



コメント

ゴルフ場利用者の他市町への流出抑制の一助につながっていると考えられる。

地方創生推進交付金(ゴルフを核としたまちの活性化)の執行状況

(H28年度) ※交付金充当額は執行額から対象外経費を除いた額の1/2

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
スタンプラリー	2,313千円
ジュニア育成	454千円
合計 2,767千円	

「新たな三木ブランドづくり」への挑戦

総事業費：1億円

これまで、市が地域の活性化のため整備を進めてきた「別所ゆめ街道」に、集客が見込める核となる店舗（当初はカフェテラスを想定）を建設するとともに、「若者」や「女性」が訪れたい魅力づくりを進め、新たな三木ブランドとして全国に発信する。

課題

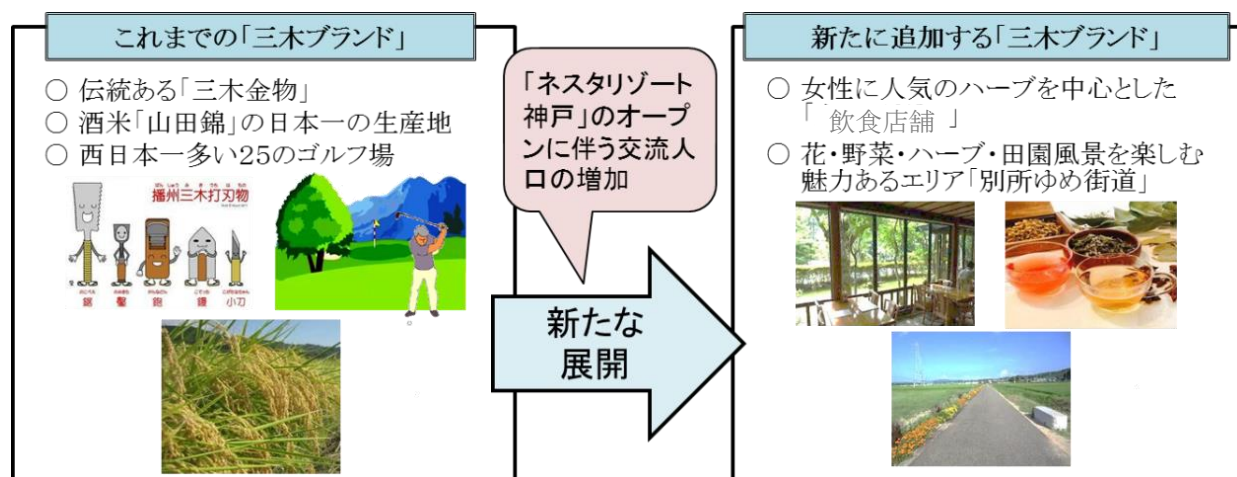
- ・三木市の新たなブランドづくり
- ・ハーブ産業を活用したまちの魅力づくりと市内周遊の誘引

取組方針

- ・集客力のある飲食店の誘致
- ・隣接するハーブ工房との連携強化によるハーブ産業の推進
- ・新たな店舗での三木産農産物の魅力発信
- ・遊歩道を活用した回遊性の向上

取組内容

新たなブランドづくりのイメージ



別所ゆめ街道

H20.4月に三木駅から厄神駅(加古川市)を結んでいた三木鉄道が廃線となりました。そこで、「かつて三木鉄道がまち、人を繋げてきたように、市内外の人々の交流を促進し、訪れる人々を市民の皆様とおもてなしの心で迎える。」をコンセプトに、三木の西の玄関である別所地域の活性化にむけ、線路跡地を別所ゆめ街道として整備を進めています。

- ・三木鉄道記念公園 (H22.6月)
- ・石野・別所休憩所 (H24.8月)
- ・遊歩道[4.6km] (H22～H29.10月)
- ・飲食店舗 (H30.3月予定) など



ブランド発信拠点となる飲食店舗の整備

別所ゆめ街道への集客の核となる飲食店舗の整備方針を立て、開設(H30.3予定)に向けた準備を進めている。平成29年3月に年間12万人もの集客を誇るうどん料理店「いなみ有限会社」が飲食店舗運営事業者に決定。今後、隣接するハーブ工房「株式会社みきヴェルデ」とのコラボによるメニュー及び商品開発を行う。

ハーブ産業化の推進

ハーブ産業の推進に取り組む「株式会社みきヴェルデ」と連携し、加工品を観光施設や物産店でPRするとともに、ふるさと納税の記念品として出品している。



別所ゆめ街道の魅力アップ

田園風景に囲まれた約4.6kmにも及ぶ遊歩道を整備し、平成29年10月に全線開通予定。魅力アップに向けて、花木を植栽しているほか、旧駅を整備し、休憩所として活用するなど、利便性の向上も進めている。



観光スポット間の回遊性向上

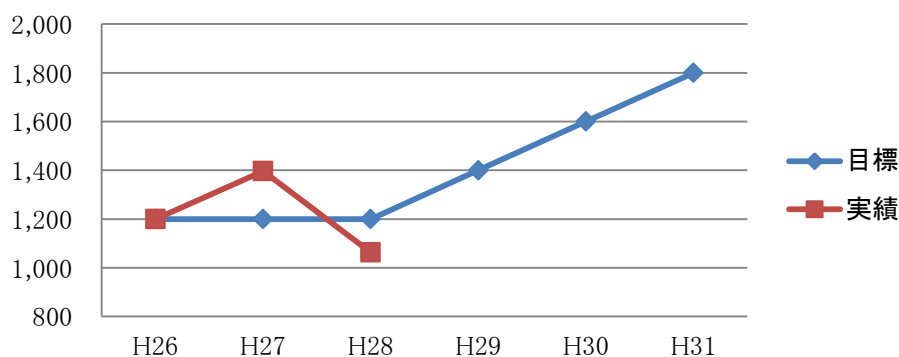
別所ゆめ街道を軸に、飲食店舗、三木鉄道記念公園、正法寺展望台などの周辺の観光スポットをはじめ、市内の観光施設をつなぐことで、周遊性の向上を図る。



ハーブ産業化による販売額

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	1,200万円	1,200万円	1,400万円	1,600万円	1,800万円
実績	1,200万円 (H26)	1,397万円 (116%)	1,063万円 (89%)			

ハーブ産業化推進による販売額(単位:万円)



KPI判定(H28年度)

△

コメント

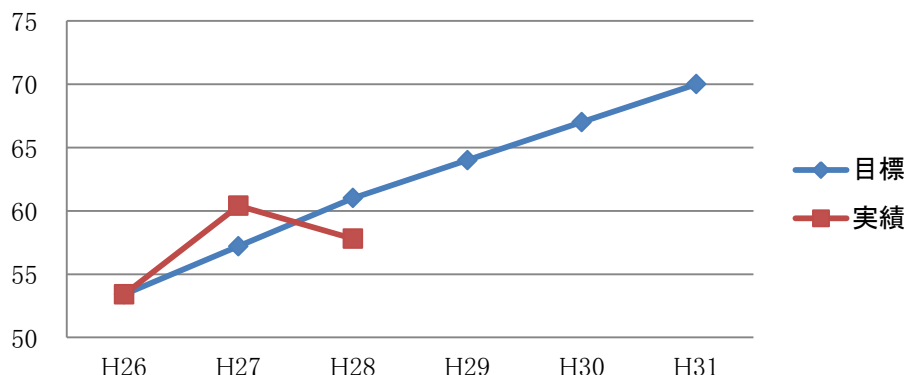
ヴェルデ直営店の閉店により販売額が低下した。

市内観光施設利用者数(再掲)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	57.2万人	61万人	64万人	67万人	70万人
実績	53.4万人 (H26)	60.4万人 (106%)	57.8万人 (95%)			

※市内観光施設・・・三木ホースランドパーク、道の駅みき、旧玉置家住宅、旧小河家別邸、みき歴史資料館を指す。

市内観光施設利用者数(単位:万人)



KPI判定(H28年度)

△

コメント

前年比では、利用者数が下がったものの、全体としての交流人口は増加傾向にある。

別所ゆめ街道カフェテラス(核となる飲食店舗)の販売額

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
目標	—	—	—	3,000万円	3,000万円	3,000万円
実績	—	—	—			

※現時点では実績がないため、グラフ表記及び判定・コメント欄を省略。